

第5回東京都における国際スポーツ大会のガバナンス強化に向けた有識者会議
(議事概要)

1 開催日時

令和6年11月5日(火) 13時15分から14時15分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎42階北側 特別会議室C

3 出席者氏名

○委員

滝口 広子 弁護士

松本 泰介 弁護士、早稲田大学スポーツ科学学術院教授

山本 英幸 弁護士、公認会計士

※ 松尾 祐美子 委員は欠席、事前に意見を聴取

○大会運営組織

公益財団法人東京2025世界陸上財団

田近 隆 総務部長

白石 正樹 企画部長

前山 琢也 財務部長

小林 あかね 業務開発部長

一般財団法人 全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会

倉野 直紀 事務局長

灘野 邦敏 事務局職員

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 デフリンピック準備運営本部

板倉 広泰 総務部シニアマネージャー

小玉 伸一 総務部シニアマネージャー(調整担当)

小田 周平 総務部総務・人事グループマネージャー

○事務局

東京都生活文化スポーツ局

古屋 留美 局長

渡邊 知秀 次長

梅村 実可 国際スポーツ事業部長

巻口 博範 大会総合調整担当部長

清水 俊二郎 事業調整担当部長

三浦 大助 事業調整担当部長

4 要旨

(1) 挨拶

○古屋局長

本日はお忙しい中お集まり頂き有難うございます。

これまで4回開催し、委員の皆様からは、国際スポーツ大会のガバナンスの強化に向け沢山の貴重なご意見を頂きました。

その成果として、「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を策定し、ガイドラインを踏まえながら両大会の運営組織のもと、約1年後に迫った両大会の準備を進めてきております。改めて御礼申し上げます。

本日は、前回に引き続きガイドラインの趣旨に沿って、両大会の運営組織におけるガバナンス体制の構築など、具体的な対応状況についてご確認頂ければと思います。

また、昨年11月には、両大会の大会開催基本計画も策定され、大会開催に向けた準備が着実に進んでいるところです。来年に迫った大会開催に向けた両大会の取組についても、専門的知見に基づくご助言を頂ければ有難いと思っております。

是非、忌憚のないご議論、ご意見を頂けますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 議題

- ・東京 2025 世界陸上競技選手権大会及び第 25 回夏季デフリンピック競技大会東京 2025 の大会運営組織におけるガバナンスの取組状況について
- ・東京 2025 世界陸上競技選手権大会及び第 25 回夏季デフリンピック競技大会東京 2025 に関する取組状況について

(3) 意見交換

1. 適切なガバナンスの確保

①世界陸上

○松本委員

- ・継続してコンプライアンス委員会を開催しているとの説明があったが、議論の内容は理事会等に対してどのように報告されているのか伺いたい。
- ・不祥事対応で、昨今コンサル会社を使う企業が増えているが、そのような会社と契約することをお考えなのかなど、方針を伺いたい。

○世界陸上財団 田近総務部長

- ・コンプライアンス委員会での取組内容については、弁護士であるコンプライアンス担当理事から理事会へ報告を行っている。
- ・2点目の危機管理については、例えばサイバーセキュリティに関する対応として、警察庁OBなど、知見のある方を訪問し、協力を要請している。また、デジタルサービス局と連携してボランティア募集フォームの安全性について業者に確認を行うなど、まずは自分たちの力で手続きを進めている。今後は、コンサルタント会社の活用についても、

検討していきたい。

○滝口委員

- ・コンプライアンス推進計画が令和6年度に策定された。令和5年度計画の達成状況などをどのように令和6年度計画に反映しているのか、伺いたい。
- ・大会開催までの短期間で監査の実を上げるのは難しいと認識している。三者が互いの認識をすり合わせ、穴がないように監査するかと思うが、どのように意見交換をして、互いの認識を共通のものとしているのか、伺いたい。

○世界陸上財団 田近総務部長

- ・誓約書の提出、チェックリストの確認、研修の実施などコンプライアンスに関する様々な取組を行っている。令和5年度は特段の事故もなく、コンプライアンス委員会でも各種取組が機能していると評価されている。令和6年度においては、直接雇用の職員も多数採用しており、組織内に多様な人材が入ってくることなどを踏まえ、各種取組のさらなる徹底と継続を行っている状況である。
- ・三様監査は、四半期ごとの意見交換会に加え、例えば予備調査等への陪席、日常的な連絡調整の実施など、三者で積極的なコミュニケーションを図っており、短期間であっても実効性を高めるよう取り組んでいる。

○山本委員

- ・前回の会議で対応予定であった部分について、適切に対応されている。
- ・世界陸上財団のHPを拝見したが、ガバナンスに関し、内容が充実しており、都民、国民に対して十分に説明がなされており、透明性の高いものになっていると感じた。例えば理事の選任に関し、過程、手続き、基準や選定理由も含め非常に詳細に説明されている。
- ・契約調達委員会に関する議事録が公表されているが、単に開催実績だけでなく各委員の具体的なコメントについて詳細に記載されており、充実した内容になっている。
- ・今後とも、透明性の確保、ガバナンスに対し、都民、国民の信頼を確保するために引き続き情報開示に努めてもらえると良い。

②デフリンピック

○松本委員

- ・デフリンピック運営委員会及びデフリンピック準備運営本部においても継続してコンプライアンス委員会を開催しているとの説明があったが、議論の内容は理事会等に対してどのように報告されているのか伺う。

○デフリンピック準備運営本部 板倉総務部シニアマネージャー

- ・本体である東京都スポーツ文化事業団理事会において説明している。

○デフリンピック運営委員会 倉野事務局長

- ・都の担当者、運営委員会の担当者とともに情報共有し、適宜指導を受けながらコンプライアンスの確保に取り組んでおり、本体である全日本ろうあ連盟理事会において説明している。

○滝口委員

- ・コンプライアンスについて、デフリンピックの大会ボランティアの募集を始めるが、直接雇用の職員ではないボランティアについても、一定のコンプライアンスの徹底は必要。今後どのような取組を予定しているのか伺う。

○デフリンピック準備運営本部 板倉総務部シニアマネージャー

- ・今月からボランティア募集が開始。年度内に従事いただく方を決定し、来年度オンライン研修を行い、大会の内容や求められる役割を説明する予定。今大会におけるコンプライアンスの徹底についても、研修の中で伝えていく。

○滝口委員

- ・デフリンピックのHPが、組織ごとに分かれており、分かりづらい。誰がどこからアクセスしても、契約情報などにアクセスできるよう、リンクを貼るなど、HPの作りこみについて、組織体制を理解していない人も使いやすくなるようにご検討いただきたい。

○デフリンピック準備運営本部 板倉総務部シニアマネージャー

- ・一般の方にとっても見やすいページとなるよう、ろうあ連盟とも会話しながら、課題認識を持って改善に努める。

○山本委員

- ・世界陸上財団とデフリンピック準備運営本部・運営委員会それぞれの組織の状況に合わせたガバナンスが必要であり、体制整備がされていくものと思う。
- ・協賛関係は世界陸上財団との違いがあり、デフリンピックは内部で検討し、必要に応じ外部の方々の意見を聞く形になっているため、その後の四者で確認する契約調達管理会議でのチェックが非常に重要である。

○デフリンピック準備運営本部 板倉総務部シニアマネージャー

- ・協賛契約については、外部の方の入った契約調達管理会議に全件付議することとなり、しっかりとチェックできるよう、丁寧に説明する。

○滝口委員

- ・私は世界陸上・デフリンピックともに契約調達管理会議のメンバーになっているが、両大会ともほぼ同様の基準で審議し、競争性の確保や公正な手続きについては同程度のチェックを行っている。

○事務局（松尾委員の意見紹介）

- ・世界陸上の役員選任について、私（松尾委員）も役員選考委員会の委員として参加したが、設立時の方針等を見直し、大会組織運営の強化という観点も含め改めて議論をした上で、基本方針が制定された。役員選考においては、議論や基本方針に沿って経歴や経験などを総合的に検討し、適正なプロセスにより役員選任が行われたと評価している。
- ・世界陸上の契約調達管理会議について、契約調達委員会とともに入札前後の二重チェック体制を取ることは、時間的な制約もあって大変かと思うが、公正性・妥当性を担保する仕組みとして有効な方法。契約の公表についても、項目、内容も含めて適切である。
- ・世界陸上のスポンサー公募について、代理店への委託ではなく、直接販売をしていることは、公平性を担保した今後の国際スポーツ大会の理想的なモデルケースとなりうる。
- ・大会ごとの状況や条件が異なるので、全ての大会に同様に適用することは困難であると承知しているが、都にはノウハウが蓄積されると認識。今後のスポーツ大会において、大会の特性を踏まえ、このノウハウを活かしていくことは有用。
- ・世界陸上の利益相反について、大会成功のために外部人材を取り入れること自体が問題ではなく、利益相反をいかに防ぐかが重要。出向者に関する業務内容、権限など、利益相反が起こらないよう、チェック体制を整えることが肝要。
- ・デフリンピックについても、大会の特性を踏まえながら、世界陸上と同程度の取組を行っており、適切なガバナンスが確保されている。
- ・両大会ともに、フレームワークを守り、順調に準備を進め、ガイドラインに沿って体制を整え、ガバナンスを実効性あるものにするための取り組みや工夫がなされている。

2. 国際スポーツ大会を通じ東京の発展に寄与

3. 都民と共に大会を作り上げていくため参画機会を確保

○松本委員

- ・東京が国際スポーツ大会、特にメガスポーツイベントを開催できる都市として、全世界にこのブランドを発信するにあたり、一つ一つの大会がしっかりと様々なことを発信していくことが、大切であり次の大会にもつながっていく。

- ・陸上やデフリンピック、新しい競技が次につながるのはとても大切であり、このような取組を積極的に行っていくことはとても良いこと。

○滝口委員

- ・今年のパリオリンピック・パラリンピックで陸上競技に対する関心が非常に高まっており、世間ではDE & Iも非常に大きく取り上げられているので、2025年の2つの大会の開催はとてもタイミングが良く、関心を引くことができると感じている。
- ・子供向けの取組に限らず、今後は、大人も含めもう少し広く気運を醸成するように取組のランクアップが必要。少しでも多くの人の現地観戦につながるよう、引き続き頑張ってもらいたい。

○山本委員

- ・来年の大会に向け、引き続き様々な取組で大会を盛り上げるとともに、東京都の発展に寄与していただきたい。

○事務局（松尾委員の意見紹介）

- ・東京2020大会では、コロナ禍で無観客となり、都民の参画機会が制限された。今回、様々な取組を実施し、発信し、参画できる良い機会となっているため、都民にとって身近に感じられる大会を作り上げてほしい。
- ・デフリンピックは、共生社会実現に寄与する重要な意義を持っている。児童の参画なども積極的に取り入れることなどを通して、都民の参画が進むことを期待。
- ・最近デフリンピックのポスターを見かける。広報の成果として、目に触れる機会も増えてきた。こうした取組が、共生社会の実現の一助になっていけば良いと思う。

【総論・まとめ】

○松本委員

- ・この会議も5回開催され、一つ一つ取組を積み重ねてきていることが重要。私も東京2020大会の時から、様々な会議に参加しているが、事前にこうした段階的な取組を行うことはなかった。来年の大会の成功に向け引き続き色々取り組んでいただきたい。

○滝口委員

- ・私は両大会の契約調達管理会議の委員に入っているので、運営組織が短い準備期間にガバナンスのための取組を精力的に行っていることを日々実感している。あと一年弱、引き続き頑張ってください。

○山本委員

- ・ガバナンスの体制づくりも含め、様々な努力をしている。来年の大会が成功することを期待している。

以上